

「そのとき、イエスはでしたちに」たとえをはなされた。「もうじんがもうじんにみちあんないをすることができようか。ふたりともあなにおちこみはしないか。ではしにまさるものではない。しかし、だれでも、じゅうぶんにしゅうぎょうをつめば、そのしのようになれる。あなたは、きょうだいのめにあるおがくずはみえるのに、なぜじぶんのめのなかのまるたにきづかないのか。じぶんのめにあるまるたをみないで、きょうだいにむかって、『さあ、あなたのためにあるおがくずをとらせてください』と、どうしていえるだろうか。ぎぜんしゃよ、まずじぶんのめからまるたをとりのぞけ。そうすれば、はっきりみえるようになって、きょうだいのめにあるおがくずをとりのぞくことができる。

わるいみをむすぶよいきはなく。また、よいみをむすぶわるいきはない。きは、それぞれ、そのむすぶみによってわかる、いばらからいちじくはとれないし、のばらからぶどうはあつめられない。よいひとはよいものをいれたところのくからよいものをだし、わるいひとはわるいものをいれたくからわるいものをだす。ひとのくちは、ころからあふれでることをかたるのである。」

イエすさまはおもしろいたとえをしているとおもいませんか。ひとのめのなかのおがくず（きをきったあとのこまかいくず）をとらせてくださいとか、またひとのめのなかのおがくずはみえるのに、なぜじぶんのめのなかにあるまるた（ふといき）にきづかないのかなどとおっしゃっています。どんなしみだとおもいますか。

「じぶんのことをたなにあげて～～をいっている、やっている。」このことをきいたことがありますか。わたしたちは、ともだちやまわりのひとのけってん、よわいてん、あるいはもんだいをただして（なおして）あげようとしてしまうけれども、ほんとうはあいてのことがよくみえていないし、じぶんがけってんだらけなのに、おともだちやまわりのひとのけってんにたいしてすごいきびしいめでみている。じぶんのけってんにめをつむっているひとのことを、イエすさまはぎぜんしゃ（よいひとではないのに、よいひとだとみせかけている）といわれます。イエすさまは、ひとがいていることややっているいることがいっちらするようにすすめておられます、そうすればまわりのひとをちからづけ、そしてきょうのふくいんしょにかいてあるように、「ひとのくちはころからあふれでることをかたる（はなす）」のです。そのくちからひとのことにたいして、いやなことばではなくて、やさしいことばやほめることばがでるといいます。

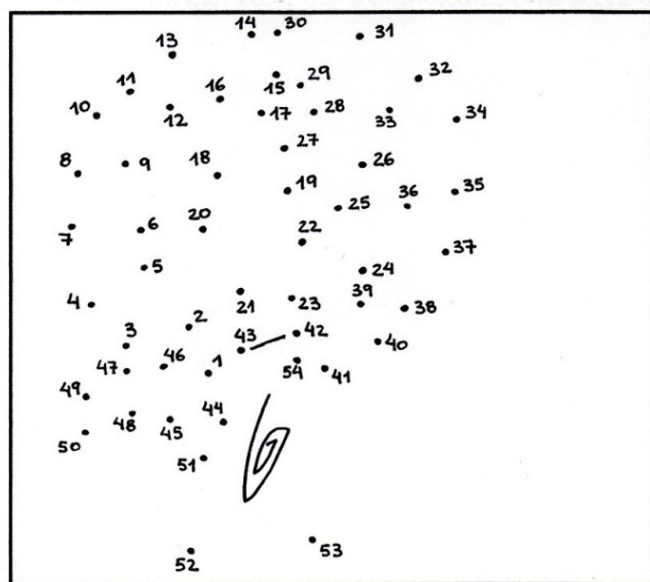
わたしたちは、ひとのあやまち、あるいはあやまりでなくても、じぶんがきにいらぬことにたしてそのひとにすごいきびしいたいどをとります。しかしじぶんのわるかったことについてあまりきづかないですね。ひとをせめるまえに、まずじぶんのいけないところや、わるいてんをなおしてからいいなさいとイエすさまがおしえてくださっています。

これからは、ぼく、わたし、おともだちのことをすなおなこころでみて、やさしいことばをかけましょうね。またきついことばをいってしまったときに、ごめんなさいといいたまうね。

ぬいえ



1 からせんをむすんでどんえがでるのでしょう



えをぬってまた
いろいろなえを
かきましょう。

みぎからひだりへ
ならべましょう

わかる / によって / み / むすぶ / その / それぞれ / きは 44